

鹿児島日英協会 ニュースレター 第1号 The Japan British Society of Kagoshima Newsletter No.1 September 2014

～ ニュースレター創刊に寄せて ～



鹿児島日英協会の活動に関しましては日頃よりご理解、ご協力を賜り心より感謝申し上げます。

お蔭さまで、英医ウィリアム・ウィルスによる鹿児島の医学の近代化、薩英戦争、薩摩藩留学生派遣など様々な歴史上の出来事を背景に、鹿児島と英国との今後一層の友好親善を図るために設立されました当協会も今年で22年目を迎えました。

これまで、歴代駐日英国大使や著名な英国人、英国研究家、アーティスト等をお招きし、講演会や各種公演等を主催して参りました。昨年は薩英戦争150周年を記念して、縁の地を訪ねる英国視察旅行を実施し、鹿児島市主催の明治維新150年カウントダウン事業の一翼を担う「薩英文化祭」にも協力団体として積極的に参加いたしました。

そこで、こうした活動について会員の皆様にいっそうのご理解、ご協力をいただきたく、ニュースレターを発行することとなりました。年2回程度発行して参りますのでよろしくお願い申し上げます。 鹿児島日英協会会長 酒瀬川純行(志學館大学人間関係学部長・教授)

～ 英国紀行…ナイジェルとフレイディスのこと ～

発端は1970年である。London の Royal National Orthopaedic Hospital で医学研修をしていた頃、ある親日家の若い英国人夫妻から、一人で暮らしている日本人留学生をその家庭に招待したいという申し出があった。Nigel Campbell とその夫人の Freydis である。この訪問を契機にその後40年以上にも亘る長い付き合いが始まるとは思ってもみなかった。帰国してからも手紙のやり取りは続いていたが、十数年を経てついに Campbell 一家が鹿児島を訪れる日がやってきた。子供も2人いて高校生と中学生くらいであった。指宿や霧島に案内し楽しい再会の日々を過ごしたことはまだ記憶に新しい。次は私たち家族が英国に行く順番である。子供や孫ともども合計7人、大挙して、その頃彼らが住んでいた Knutsford を訪れた。私たちがイッシーの池田湖に案内したように、ネッシーの住むというネス湖などを案内してもらった。

交流はその後現在にいたるまで続いている。

現役を引退後は故郷の Inverness ちかくの Muir of Ord に自宅を新築し、移り住んでいる。私たち薩英サロンのメンバー3名は本年6月、Skye 島に行く旅を企画し、途中 Campbell 邸に2泊させてもらい、旧交を温めることが出来たのは旅の素晴らしい思い出となるひとこまであった。



ネス湖上にて…Freydis、筆者、Nigel(2003年)

鹿児島日英協会 理事 入部兼一郎(薩英サロン代表)

薩英親善 ―イギリスも認めた薩摩の力―

薩英戦争が終わって二ヶ月ほど後の1863年10月25日、イギリスの新聞紙『タイムズ』は、薩摩との戦闘に関する記事を掲載している。横浜で薩摩とイギリスの和平交渉がはじまる一月ほど前のことである。

その記事には、薩摩の砲台や城下町・工場群(集成館)に壊滅的な打撃を与えたこととともに、イギリス側も甚大な損害をこうむったことが記されている。特に旗艦ゴリアラスの艦長・副長が戦死したことはフランスとの戦闘においても大きな損害といわれるレベルと記している。さらに、日本人の軍事的素質と機械に強い素養に感心せざるを得ないこと、日本の職人のレベルはイギリスの職人のレベルと変わらず、日本人が施條砲(薩英戦争で使用されたアームストロング砲)を造るのは時間の問題、日本人がうまく戦えば戦うほど、われわれ(イギリス人)は日本と友好的な関係を持ちたいと思うのであると記されている。

よく、薩英戦争で薩摩の砲弾は届かなかったとか、爆発しなかった、薩摩が完敗したなどと言われるが、砲弾は届いていたし、命中し爆発もしていた。薩摩も多くの被害をこうむったが、イギリス艦隊の損害も多大で、なんとか互角の戦いをしていたのである。

また、この頃には生麦事件の真相も分かってきていた。当初、イギリス側は、外国人が日本に近づくことを嫌う攘夷(じょうい)派によるテロ行為とみなしていた。しかし、実際はテロ行為ではなく、島津久光を護衛する侍(今で言うSPのような護衛官)が近づくのを制止するのを無視し、馬を乗り入れたためリチャードソン等は斬られたのである。護衛が本務を全うしただけで、テロ行為ではなかった。イギリス側も真相を知り、同年10月29日付けの『ロンドン・アンド・チャイナ・テレグラフ』には、薩英戦争の悲劇は、わがイギリス人の一団のごう慢さと国民的習慣を無視したことによって引き起こされた。リチャードソンらは指示に従い引き返すべきであったと書かれているのである。

薩英親善は、イギリスの力を思い知り、その諸制度・科学技術を導入したいと思った薩摩の片思いではなく、イギリスも薩摩を誤解していたことを知り、その実力を認め、友好関係を結びたいと思っていた。相思相愛の結果結ばれたものなのである。

鹿児島日英協会 理事 松尾千歳 (薩摩尚古集成館 副館長)



薩英戦争『THE ILLUSTRATED LONDON NEWS』1863年11月7日号、薩摩英国館蔵

～ 薩英文化祭に参加して ……ガーデニングを楽しもう！ …… ～

明治維新 150 年カウントダウン事業として、平成 25 年 10 月 26 日(土)山下町中央公園で「薩英文化祭」が開催されました。

その中で「オープンガーデンかごしま・Flower Rondo」は、ハンギングバスケットの飾り付けと実演体験のコーナーを作って頂きました。当日は秋晴れの良い天気恵まれ、会場には多くの方々が来られました。イギリスの街並みのように飾り付けたいと、思いを馳せながら、16 基設置しました。事務局のシャン・ド・フルール店も花鉢の販売に協力して頂きました。

ハンギングバスケット実演と体験の参加者の中には初めての方もありバスケットのしくみや管理の仕方等を勉強致しました。

午後からはステージに上がって「オープンガーデンかごしま・Flower Rondo」の活動内容や「ハンギングバスケット協会」との関係性を説明出来たことは良い機会でした。

また、どこかの街角でハンギングバスケットを飾り、路行く人々が心和む街造りに参加出来れば嬉しく思います。

鹿児島日英協会様よりお声をかけて頂き、参加しました会員は楽しい時間を過ごすことが出来ました。心からお礼申し上げます。

鹿児島日英協会 会員 五反律子(「オープンガーデンかごしま・Flower Rondo」)

～ ロンドン語学留学 St Giles College と大英図書館 ～

昨年9月からロンドン北郊の St Giles College に留学しています。伝統と名声を誇る学校の周りは美しい建物や緑がいっぱいで、市内中心部まで30分弱という便利なところ。

フランス、ドイツ、韓国等50カ国以上から多くの学生が通っています。熱心でフレンドリーな先生方のおかげで、リラックスした雰囲気の中、楽しく学んでいます。スイス人とも友達になり、新しい考え方も学んでいます。又、級友達がパブや買い物に誘ってくれるので、内気な私も随分活発に行動しています。

最近はお天気に恵まれ、気持ちの良い日が続いています。公園では家族連れやランニングの人達が楽しいひと時を過ごしています。日没が午後9時頃なのでパブでは外でも若者達がシャンディ・ガフなどを片手に楽しそうに語っています。そんな好天気の中、私は学校帰りに大英博物館まで足を延ばす日々を送っています。夜遅くまで開いており無料で wi-fi も使えるのでとても便利です。平日は学生が非常に多く私のように友達と寄り、宿題や勉強する人や展示物を観に来ている人も沢山います。外でも座って楽しいひと時を過ごせるので非常に気に入っています。2 階立てバスの最前列に座り、沈む夕日を背景に美しい街並みや教会を見ながら帰宅する時が私にとって至福の時間です。

2014年 5月

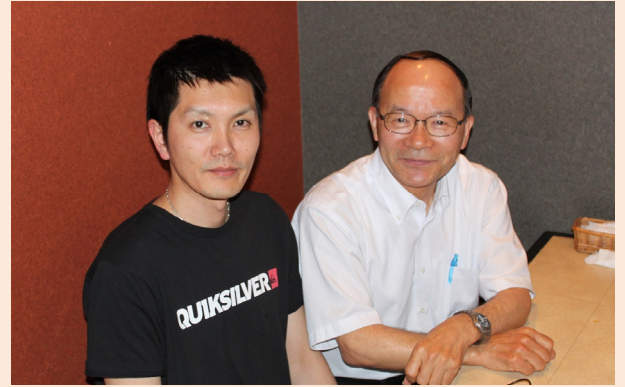
鹿児島日英協会 青年部(仮)会員 新原恵美 (志學館大学 英語英米文化コース)



～ 鹿児島日英協会・青年部(仮)の設立準備中!! ～

拝啓

立秋とは名ばかりの残暑も厳しいこの頃ですが、皆様におかれましてはますますご清祥のこととお喜び申し上げます。この度 JBSK Youth Division の会長に就任いたしました狩所です。このような名誉ある大役を担うことに喜びを感じますとともに、責任と重みを再認識しているところです。



狩所さんと酒瀬川会長、青年部設立準備会にて

さて、私は学生時代より酒瀬川教授の多岐にわたる英国及び英語の知識と経験に憧れており、それは今でも不変の想いです。ロンドンでのホームステイ時に酒瀬川教授とご一緒した史跡や名所に触れた時の感動は、今でも私の中に熱い灯となって輝いております。

現在私自身、学習業界で教鞭を執る毎日の中で自身の未熟さと日々対峙しております。今回お話をいただき、恩師への恩返しに協会への貢献をしたいと直感的に感じました。また、偉大な先輩方との交流や面識により人脈が広がり、学ばせて頂く機会が増えることで見識が広がることも確信いたしました。このような素晴らしい場に参加できることを誇りに思っております。

至らぬ点ばかりでご迷惑をおかけすることもあると思いますが、新しい世界へ飛び込む期待を抱いております。栄誉ある役をお預りした以上、精一杯取り組み、責務を全うする所存ですので皆様のご理解・ご協力よろしくお願いいたします。

敬具

2014 年 8月

鹿児島日英協会 青年部(仮)設立準備委員会 会長 狩所 貴久

平成26年度第一回理事会(3月31日、於:鹿児島東急イン)報告

(出席者:会長、理事9名、事務局長)

昨秋の「薩英文化祭」並びに今春の日英協会全国大会(駐日英国大使館)での当協会活動報告についての会長報告の後、本年度事業内容、今後の活動方針等について幅広く討議を行いました。

主な合意事項は次の通りです。

- ① 市や県との連携事業(「薩摩英国文化祭」)への参加
- ② 「鹿児島日英協会青年部」(仮称)の創設
- ③ ニュースレター(活動報告、会員のエッセイ、紀行文等)の発行

理事会では当協会の更なる発展に努めて参ります。

平成26年度 鹿児島日英協会

役員・事務局長の紹介

【会 長】	酒瀬川 純行	
【副 会 長】	永田 行博	上山 達典
【理 事】	田中 弘允	吉村 千鶴子
	入部 兼一郎	松尾 千歳
	大園 純也	石井 祥
	鎌田 善政	鮫島 信一
	古木 圭介	中村 耕治
	塩倉 安伸	村田 長芳
【監 事】	塩倉 宏	
【事務局長】	藏本 真衣	

～今後の予定・連絡事項～

- ・11月14日(金) 平成27年度 総会・交流会
→鹿児島医師会館、18:00～20:30
- ・11月15日(土) 薩英文化祭
→山下町中央公園、10:00～16:00
- ・ニュースレターにご投稿頂ける方を募集しております!

事務局より

平成26年4月より事務局長を務めることになりました藏本真衣と申します。当協会に貢献できたいと思っています! よろしくお願致します。

【鹿児島日英協会 事務局所在地】

〒890-8504 鹿児島市紫原1丁目 59-1 (志学館大学内)

TEL: 099-812-8501 Fax: 099-257-0308

URL: <http://www.shigakukan.ac.jp>

Contact Email: sakasegawa@shigakukan.ac.jp